

Parade556

通算100万人目のお客様

【人物一覧表】

宮崎慈教（34） 会社員

宮崎しずか（34） 慈教の妻

土橋ラウル（29） タレント・司会者

ショッピングモールの観客たち

ショッピングモールの警備員（2名）

ショッピングモールのスタッフ

【あらすじ】

宮崎慈教（34）と宮崎しずか（34）は結婚6年目で、性格の不一致から離婚を決めた。

しずかは、一人で離婚届を市役所に出そうとするが、宮崎は付いてくると言い張り、二人で市役所に出かけることに。途中、煙草が欲しくなった宮崎は、無理矢理、しずかを連れてショッピングモールへ。すると100万人目の客として表彰される。ステージ上で、タレントの土橋ラウル（29）からインタビューを受ける二人。宮崎は、まだ夫婦のように振る舞う。しずかは観客を意識して本当のことが言えない。ラウルから奥様の好きなどころ？と質問され「料理」と答えたことから、しずかは傷ついた過去を思い出し、観客に離婚することを伝える。すると観客からは、しずかを気遣い応援する声援が。最後は一人、ステージを下りて去っていくしずかを追いかけようとする宮崎を、観客が引き留める展開に。そして、しずかは一人市役所へ向かう。

○宮崎家のあるマンション・全景

○同・405号室・ダイニングルーム

宮崎慈教(34)と宮崎しずか(34)、向かい合って座っている。

二人の前に離婚届。

しずか、ハンコを押すと宮崎を見て、ホッとした顔で笑う。

宮崎「笑うなよ。この状況で笑うか？普通」

しずか「ごめん。でも、ありがとう」

宮崎「あんな…」

しずか「ありがとう」

宮崎、溜息をつくと天井を見上げる。

しずか、嬉しそうに離婚届をテーブルから取る。

宮崎、テーブルの上に置いてある煙草を掴み、立ちあがるとベランダへ。

しずか「あ」

宮崎「なんだよ」

しずか「部屋の中で吸えば」

宮崎「は？なんで。今までダメだったろ」

しずか「明日から、あなたの家だから」

宮崎「ルールはルールだろ」

宮崎、ベランダに出ていく。

しずか、その背中を笑って見送る。

○ショッピングモール・近くの通り

宮崎としずか、並んで歩いている。

しずか「良いのに。ひとりで」

宮崎「こういうの、ちゃんとしないとだろ」

しずか「そうかなあ」

宮崎「俺はダメだね。そういうのはちゃんと

しないと。ケジメだよケジメ」

しずか「ふふ」

宮崎「なんだよ」

しずか「変だよね。なんか、今はおかしい。

そういうトコが」

宮崎「久々に、そんな笑ってる顔見たよ」

しずか「そう？」

宮崎「もつとオマエが笑っていたらな：俺た

ちもつと長続きしたんだよ」

しずか「ごめんね」

しずか、満面の笑顔。

宮崎「ふん」

宮崎はずつと仏頂面。

宮崎、ショッピングモールの入口を見

つけると、あ、となり、

宮崎「悪い。ちよつと煙草」

しずか「え？今」

宮崎「ちよつと買ってくる」

しずか「出してからにしてよ」

宮崎「頼むよ。な。もう限界」

しずか「もう」

宮崎、ショッピングモールに歩いていく。

しずか、立ち止まったままスマホをいじりだす。

宮崎、振り返り、

宮崎「え？」

しずか「え？何？」

宮崎「いや、俺、財布もってない」

しずか「ウソでしょ？」

宮崎「外出る時、もってかないだろ。いつも」

しずか「もう、「いつも」は終わりじゃん」

宮崎「まだ終わってないだろ」

しずか「終わった」

宮崎「出して、終わりだよ」

しずか「信じられない」

宮崎「早く、早く」

しずか、渋々、宮崎についていく。

しずか「（呟く）ほんと別れてよかった」

○同・入口

宮崎としずか、入っていく。

店員たちが待ち構えている。

宮崎としずかが入ってくると、クラッ

カーが一斉に開く。

天井からぶら下がったくす玉が開き、

【通算100万人目のお客様】の垂れ幕が躍る。

あっけにとられる宮崎としずか。

土橋ラウル(29)、ピンク色のスーツを着て現れるとマイクを持って喋りはじめる。

ラウル「おめでとうございます。通算100

万人目のお客様です。お名前は？」

宮崎「え？え、えーと、宮崎です」

ラウル「お隣の方は？」

宮崎「あ、えーと、妻です」

ラウル「宮崎さんご夫婦です。どうぞこちらへ」

ラウルに促されて、宮崎としずか、エントランスにあるステージへ促される。

宮崎としずか、戸惑いながらも土橋についていく。

○同・ステージ上

宮崎としずか、ラウルと並んで立っている。

ショッピングモールの客が、観客席に

集まってくる（親子連れや老人たち）。

ラウル、マイクで話し始める。

ラウル「イセヤモール立川店、通算100万

人目のお客様、宮崎さんご夫婦です」

観客席から拍手が沸く。

ラウル「お二方は、結婚何年目ですか？」

ラウル、マイクを宮崎に向ける。

宮崎「えーと、6年目です」

ラウル「イセヤモールには、よく来られるんですか？」

宮崎「ええ。買い物で。よく」

ラウル「景品として、モルディブ一週間旅行が当たりましたが、お気持ちいかがでしょうか？」

しずか、え？と言った顔になる。

宮崎「ああモルディブ。行ったことあるかな？」

宮崎、しずかを見る。

ラウル「モルディブですよ。奥様も嬉しいでしょう？」

ラウル、マイクをしずかに向ける。

しずか「ええ：嬉しいです」

ラウル「モルデイブに行かれたことは」

しずか「ないと思います」

宮崎「(割って入り)いや、ないです。全然ない」

観客席から笑いが起こる。

ラウル「いや、ほんとに仲良しな宮崎ご夫婦ですが、お互いの好きのところはどこですか？」

宮崎としずか、顔を見合わせる。

ラウル「えーと、どちらから言っていたいたいてもいいんですか：どうしようかな」

宮崎、ラウルのマイクに顔を近づけて、

宮崎「料理の上手いところですかね」

観客から温かい拍手が沸く。

しずか、作り笑顔。

○(回想) 宮崎・しずかの自宅・ダイニング

(夜)

しずか、食事を用意して待っている。

スマホを見る。LINE。

【いつ帰ってくるの？】

宮崎の既読つかない。23時過ぎ。

○（回想）同・玄関・内（夜）

宮崎、泥酔して帰ってきて、上がり框に座り込む。

サイドテーブルの時計は午前2時を回っている。

しずか、リビングから出てきて、

しずか「どうして連絡してこないの」

宮崎「まず、お帰りなさいだろ」

しずか「じゃあ、ご飯用意しろとか言わないでよ」

宮崎「仕事の付き合いなんだよッ」

しずか「LINEくらい返せるでしょ」

宮崎「はあ。バカだな。スマホの画面なんか見てたら減点されるんだよ」

しずか「トイレとか行けばいいでしょ」

宮崎「あんな、一瞬も聞き漏らせないの。部

長の話は」

しずか「どうせゴルフとフィリピンパブの話でしょ」

宮崎「内容じゃないんだよ。バカだな」

しずか「もう、良い」

宮崎「オマエはいいな。いつも家にいて、プ

レッシュャーもなーんもなくて」

しずか「こっちだって働きたかったよ。でも、

そっちが支えてくれて言ったから」

宮崎「ふっ…文房具の営業を？」

しずか「私にとっては大切な仕事だったの」

○元のショッピングモール

ラウル、宮崎にマイク向けて、

ラウル「手料理、何がお好きですか」

宮崎「ロールキャベツとかですかね。あと、

ハンバーグも」

ラウル「そうですね。美味しそうですね。奥

様、料理が上手な所が好きだそうです」

ラウル、マイクをしずかに向ける。

しずか、観客のことを気にしながら、

しずか「ありがとうございます」

ラウル「物静かな奥様ですね。失礼ですが、

お子様は？」

宮崎「ああ。そろそろですかね」

ラウル「そうですか。奥様、これからは将来のベビーに美味しい料理を振る舞っていかれるんですね」

○（回想）宮崎・しずかの自宅・ダイニング

（夜）

しずか、悔し泣きをしている。

風呂場から、宮崎の鼻歌（酔っている

ため調子はずれな）が聞こえてくる。

しずか（声）「子供は、作りません」

○元のショッピングモール

ラウル、しずかの発言に硬直。

しずか、演劇俳優のように、観客に向かって大きな声でしゃべりだす。

しずか「私達、今日、離婚するんです」

宮崎「バカ。オマエ」

しずか「ですから、もう、夫婦じゃないんです」

宮崎「いや、違いますよ。みなさん。これは違うんです」

しずか「何が違うの？何も変わらないじゃない」

宮崎「バカ。今じゃないだろ」

しずか「今だよ。今、起きてること」

宮崎「状況見ろ」

しずか「料理が好き？何回、無駄にした？」

宮崎「だから、今、言うな」

しずか「38回」

宮崎「は？」

しずか「6年間で38回も無駄にした」

宮崎「そんなもんかよ」

しずか「すごい数だよ。もったいない」

宮崎「俺が稼いできた金じゃないか」

しずか「こういう時だけ、良い顔して。外面ばっかり良いんだから」

宮崎「とにかく、今はやめろ。今は」

しずか「私は、家の中で、もっと優しくいてほしかった。それだけだったのに……」

しずか、思い出し怒りのあまり泣き出してしまふ。

宮崎、ラウルや観客に愛想笑いを向けて、

宮崎「いや、違う。違いますからね」

しずか、ラウルからマイクを奪うと、しずか「ほんとにごめんなさい。景品はお返しします。二人で旅行なんて死んでも嫌」

しずか、ラウルにマイクを返す。

宮崎、茫然。

ラウル「えーと、これはどういう」

ラウル、舞台袖にいるスタッフの方を見る。スタッフ、頭を抱えている。

観客から自然と拍手が沸く。特に女性陣から。

観客A（女性）「よく頑張った」

観客B（女性）「自由に生きて」

宮崎、ラウルからマイクを奪うと、

宮崎「いや、違うんですコレ。違うんですよ。

俺は、全然納得してなくて」

観客から、敵意のような視線を浴びる。

宮崎「いや、俺は、変わるってちゃんと saying

たんですけど、コイツが信じてくれなくて」

観客（女性C）「奥さんを、コイツなんて呼ぶ

な」

宮崎「あ、えーと、つ、妻が…」

しずか、そっぽを向いている。

観客（女性D）「よく頑張ったね」

しずか、泣きながら舞台を下りていく。

宮崎「あ、おい。おい」

○同・ステージ脇の観客席

しずか、入口に向かって歩いていく。

観客から温かい言葉を浴びる。

観客（女性E）「幸せに生きてね」

観客（女性F）「頑張ってたね」

しずか、一つ一つにうなずきながら、

観客の間を通りぬけていく。

○同・ステージ上

宮崎、ステージを下りてしずかを追いかけていこうとする。

その前に、観客たちが立ちほだかる。

宮崎「いや、ちょっと」

観客（女性A）「男らしくないよ。アンタ」

宮崎「いや、まだ離婚したって決めたわけじゃないんで」

観客（女性B）「奥さん、自由にしてあげて」

宮崎「いや、ちゃんと話し合って」

観客（女性C）「もうアンタのこと見限ったんだから、諦めなよ」

宮崎「だから、ちゃんと…いや、家族の話なんで。皆さんには関係ないでしょ。どいてくださいよ」

観客たち、どかない。

ショッピングモールの警備員2名が近づいてくる。

宮崎「あ、ちよつと。どけてくださいよ」

警備員たち、観客ではなく宮崎を連行していく。

宮崎「いや、俺じゃなくて、俺じゃない」

人込みの向こう、しずかが観客に見送られながらショッピングモールを出ていく。

宮崎「おい。しずか、しずかぁ」

宮崎、警備員たちに腕を掴まれ連れていかれる。

宮崎「だから俺じゃない。俺じゃないんだよ」

○同・近くの通り

しずか、涙を拭くと鞆から離婚届の入ったクリアファイルを取り出す。それをじっと見てから鞆に戻すと、涙を拭き、はつきりとした足取りで歩き出す。